

# 公立大学法人九州歯科大学 暫定評価

## I 全体評価

平成18年度に法人化した公立大学法人九州歯科大学は、理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めてきたところである。

九州歯科大学は、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、地（知）の拠点として、大学の個性・強みを生かした教育研究を行い、地域社会の発展に貢献できる優秀な人材の育成をはじめとした取組を着実に実施することを使命としている。

今回実施した中期目標期間評価の暫定評価は、6年間の第3期中期目標期間（平成30年4月1日から令和6年3月31日まで）が令和5年度に終了することに伴い、次期中期目標に向けての法人の組織及び業務全般のあり方等についての検討に資するものとするため、中期目標期間の終了前に、中期目標期間の業務実績について暫定的な評価を実施したものである。

具体的には、中期目標期間の4年経過時における中期目標の達成状況及び認証評価機関の評価結果を踏まえて実施した。

なお、令和5年度までの6年間の業務実績については、中期目標期間終了後にあらためて評価結果を確定させることとしている。

評価の結果、中期目標項目6項目中1項目（教育）について「達成状況が非常に優れている」、5項目（研究、地域貢献及び国際交流、業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善、自己点検・評価及び情報の提供）について「達成状況が良好である」と評定した。

九州歯科大学は、医科歯科連携や多職種連携を見据えた特色ある学生教育を行うとともに、地域歯科医療従事者に対するリカレント教育に加え、地域の中核病院等での医科歯科連携による地域包括ケアシステム構築や成人歯周病予防の取組を幅広く展開するなど地域貢献にも力を入れている。令和2年度からは新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けているが、遠隔授業も的確に組み合わせて学生の学修機会を確保するとともに、感染拡大防止対策を行ったうえで大学の特色である医科歯科連携実習も継続するなど、教育研究の維持向上に取り組んでいる。

特に、理事長の強いリーダーシップにより、卒業目標の達成に向けて学修成果を明示

する「アウトカム基盤型教育」の実現に向けた教育改革を推進し、ルーブリックを活用した学修評価、先進的シミュレーター導入による臨床教育の充実、大学院修了率の向上などの成果をあげている点はきわめて優れている。

また、令和4年度に受審した認証評価においては、「九州歯科大学の教育研究等の総合的な状況は、大学改革支援・学位授与機構が定める大学評価基準に適合している」と評価されている。

以上のことを踏まえ、公立大学法人九州歯科大学の中期目標期間の終了前に見込まれる中期目標期間の業務実績評価（暫定評価）については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としては達成状況が良好であると認められる。

中期目標期間の各年度の業務実績評価及び今回の暫定評価の結果を踏まえ、引き続き、構築した内部質保証体制を機能させながら、公立大学としての役割を意識して実践的な歯科医療人の育成を目指し、中期目標・中期計画の着実な達成に努めるとともに、内部質保証における組織的な取組などの中で明らかとなった課題や今後目指すべき方策については、次期の中期計画の作成に反映され、法人の継続的な質的向上に資するものとされたい。

## II 項目別評価（中期目標項目別評価）

### 1 教育

評価	5：中期目標の達成状況が非常に優れている。
----	-----------------------

教育については、中期目標期間の4年経過時において、中期計画を着実に実施するとともに、特に優れた実績を上げている実施事項や充実した教育を推進するための積極的な取組が認められることから、達成状況が非常に優れていると判断し、5と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- (1) 地域の歯科保健医療に貢献する実践的な歯科医師及び歯科衛生士の育成（アウトカム基盤型教育の推進）
  - ・初年次教育のシラバスの改訂を行うとともに、新入生スタートアップ学修支援プログラムを開始し、歯科医療人としての意識の向上に繋げるなど、教育の充実に取り組んでいる。
  - ・モデル・コア・カリキュラムの改訂を踏まえ、診療参加型の臨床実習を展開するとともに、医科歯科連携実習を多く取り入れ、コロナ禍においても総合病院と連携した教育を継続するなど、実践的な歯科医療人の育成に取り組んでいる。
  - ・ステューデント・デンティスト認定制度の実施体制を整備し、臨床実習前の適正な評価を図るとともに、他に先駆けて導入したデジタル歯科シミュレーターを、学部の技

能教育に適した形に改良を加え、学生の臨床技能の向上に向けて実習を充実させている。

- ・コロナ禍において評価基準を明確にするなどして遠隔授業を行うとともに、感染症対策を講じた臨床実習を適切に行うことにより、学生の学力の向上に取り組んでいる。
- ・学生の成績を分析したうえで学修支援を行い、令和元年度以降、歯科医師国家試験新卒合格率（対出願者数）が高水準であったほか、歯科衛生士国家試験合格率100%を維持している。

(2) 特色ある大学院教育による優れた歯科医療人の育成

- ・ルーブリック評価法を導入し、評価の観点と基準を示したうえで、学生の学びの達成度を適切に評価するとともに、学位の申請要件を見直すことにより、修業年限での学位取得の増加に繋げるなど、大学院の教育システムを顕著に改善している。

(3) 教職員の教育力向上

- ・図書館及び食堂にラーニングコモンズを整備し、グループ学習への転換など教育方法の工夫を図るとともに、個人業績評価で教育業績の低い教員に対して、職位に応じた教育力向上プランを提示するなど、教育活動の活性化に取り組んでいる。

(4) 意欲のある優秀な人材の確保

- ・模擬講義等の高大連携や高校訪問、コロナ禍におけるWEBオープンキャンパスやオンライン進学相談会を行うとともに、広報誌Platysを活用した広報活動を充実させるなど、意欲のある優れた人材の確保に取り組んでいる。

(5) 学生の学修及び生活支援

- ・教職員と保健師、学生相談室のカウンセラーが連携し、学生からの健康面、精神面、学習面の相談等に対応するとともに、新入生の助言班活動や初年次ガイダンスを通じて、学生の問題を早期に把握し、学生生活を円滑に送れるよう支援するなど、きめ細かな対応を行っている。

(6) キャリア支援

- ・歯学科にキャリアデザインに関する科目を開講し、多様なキャリアパスに結びつくインターンシップ等の活動を支援するとともに、口腔保健学科において、希望職場への就職活動を支援する体制を充実させ、民間企業や総合病院等への就職を開拓し、就職率100%を維持している。

## 2 研究

評価

4：中期目標の達成状況が良好である。

研究については、中期目標期間の4年経過時において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・地域の中核病院等との連携を強化し、地域包括ケアシステムにおける医科歯科連携や多職種連携を目指した歯科保健医療体制の構築に資する研究を展開している。
- ・成人歯周病検診を幅広く展開するため、企業等との連携により大規模な歯周病リスク検査を実施し、歯周病予防と全身疾患の関連に係る研究を展開しているほか、歯周病重症化予防のため、国民皆歯科検診の実現に向けた研究を開始している。

### 3 地域貢献及び国際交流

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

地域貢献及び国際交流については、中期目標期間の4年経過時において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- ・平成30年度に「口腔保健・健康長寿推進センター」を設置し、歯科医師、歯科衛生士を対象とした摂食嚥下障がい等に関する実践的教育を行うとともに、コロナ禍においても小児歯科医療に関するセミナーや開業医からの相談にオンラインで対応している。
- ・北九州地域の地域包括ケアシステム構築に資するため、医科歯科連携を充実させるとともに、成人歯周病予防の取組を幅広く展開するため、地域の経済団体等と連携し、事業所検診に併せた歯周病検査事業や、コロナ禍に対応できる歯周病検査キットを用いた郵送検診事業を実施している。
- ・学術交流協定に基づき、短期留学生の受入れや海外短期派遣プログラムに取り組むとともに、コロナ禍においてもオンライン国際交流プログラムを実施するなど、海外大学との交流を進めている。

### 4 業務運営の改善及び効率化

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

業務運営の改善及び効率化については、中期目標期間の4年経過時において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。評価する点は、以下に示すとおり。

- ・学長裁量経費を確保するなど戦略的な大学運営に取り組んでいるほか、コロナ禍においてスマートフォンを活用して学生の健康状態を毎日確認するなど、感染拡大防止対策を実施している。
- ・附属病院の組織体制を整備し、包括歯科診療の拡充や多職種連携の推進を図るとともに、電子カルテシステムを活用し、臨床教育素材のアーカイブ化を行っている。

## 5 財務内容の改善

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

財務内容の改善については、中期目標期間の4年経過時において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・外部研究資金に加え、教育等に関する外部資金の獲得により、目標を上回る収入実績をあげている。
- ・全学説明会で理事長自ら決算状況を説明し、大学全体で適正な予算執行に努めているほか、電子カルテシステムから得られるデータ解析を活用して診療収入の向上に繋げている。

## 6 自己点検・評価及び情報の提供

評価	4：中期目標の達成状況が良好である。
----	--------------------

自己点検・評価及び情報の提供については、中期目標期間の4年経過時において、中期計画を着実に実施していることから、達成状況が良好であると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・内部質保証委員会を中心とした内部質保証体制を構築し、教育の改善に向けてPDCAサイクルが効果的に機能するよう取り組んでいる。
- ・大学ホームページや広報誌の充実を図り、教育研究情報を適切に公開している。